

我が国の気象庁におけるルーチンモデルの改良発展、週間予報と長期予報における基本的考察の進歩に関する都田氏の影響は非常に大きい。さらにヨーロッパ中期予報中核の設立とオーストラリア気象局の予報モデルの運営に指導的な役割を果たしたことは氏の国際的な影響力を明瞭に物語っている。

第1回 GARP 全球実験 (FGGE) において都田氏は長年にわたり育ててきたモデルにより四次元データ同化法を実施された。これにより FGGE 資料のレベルⅢデータの処理ができたのであって、FGGE 計画における最も主要な功績の一つである。

1980年代に入ると氏は1ヶ月予報という先駆的な仕事に着手した。ここでも氏は高度に精密化されたモデルと実用性の両面を配慮されているかの如くである。1982年12月プリンストンで開かれた WMO-CAS 主催の長期予報に関する専門家の研究集会において、氏はコンヴェーナーとし会議を成功にみちびかれ、新しい挑戦に向かって進まれた。

都田会員の長い一貫した仕事は日本気象学会の誇りである。以上の理由により日本気象学会は昭和58年度藤原賞を都田菊郎会員に贈呈するものである。

#### 山本賞

受賞者：住 明正 (気象庁予報部電子計算室)

#### 「WMONEX 広領域における 1978~79 年冬季大循環の大規模な特徴」(「気象集誌」第59巻第5号掲載)

選定理由：北半球の冬のアジア地域のモンスーン循環は、北半球中緯度から、南半球の熱帯地域にまで及ぶ雄大な大循環を形成しているが、これまで、データ不足のため、その立体構造はほとんど解明されていない。住会員は FGGE データを赤道域 850mb と 200mb の大規模循環の解析に活用し、モンスーン循環の平均的構造と、月ごとの変化とを、はじめて、定量的に明らかにした。

また、この解析の基礎となる解析法についても検討し、客観解析と主観解析では、データの乏しい領域で、流れの場や、エネルギー変換量の計算値に大きい差が生ずることを指摘した。さらに、チベット高原付近の流れについても研究を行った。

以上の結果は、太平洋・インド洋を含む広大なアジアモンスーン領域の大気の特徴を定量的に明らかにするとともに、その解析法や数値モデルの検討により、問題点を指摘したものであって、この地域の大気の循環や変動の実態と、その機構解明に大きく寄与するものである。

本論文は、学問的な質の高さと同時に、数値予報への貢献度も極めて大きく山本賞にふさわしいものとして日本気象学会は昭和58年度山本賞を住 明正会員に贈呈するものである。

## 第22期第5回常任理事会議事録

日時 昭和58年3月1日 13.30~17.30

場所 気象庁観測部会議室

出席者 岸保, 荒井, 河村, 嶋村, 竹内, 田宮, 増田, 松野, 村山

#### 議題

##### 1. 昭和58年度予算(案)について

予算(案)の編成内容、収入・支出の計数について説明が行われた後、討議の結果一部手直しして全国理事に予算(案)を送付して早急に意見を求めたうえ、次回理事会に再度提案することになった。

##### 2. その他

(1) 国際単位系 (SI) の採用状況のアンケートについて

「天気」「気象集誌」の担当理事に回答してもらうこととした。

##### (2) 日本学術会議の改革について

さる2月16日の第87回総会で採択された日本学術会議の改革についての要望が増田理事から報告された。その中で学術会議の改革の如何によって本年11月に行われる予定の会員選挙が行われるかどうかかわからないが、もし選挙が行われる場合の気象学会推薦候補者の選挙をどうするかが討議された。討議の結果、時期及び予算の関係上学会としての選挙ができないので推薦依頼の者を常任理事会で推薦することにし、そのことを全国理事会に提案し承認を受けることになった。

承認事項 上島秀之ほか16名の新人会員を承認。